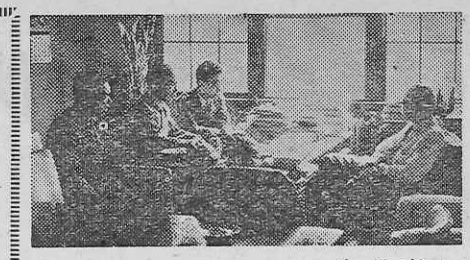
旅と文化
発行所
東京都千代田区
神田神保町2～30
財団法人全国
修学旅行研究協会
電(301)0531・2426
編集・発行人
永井照

さくらフイルム
小西六写真工業

修旅補助費の法改正 調査の上で検討

文部省内藤初中局長語る

十月十七日十一時より全修協山本理事長、永井事務局長、中原次長、藤村文化部長の四人は、山形県選出自民党政調会副会長黒金泰美氏、全修協完戸山形県支部長と共に文部省内藤初等中等局長を局長室に訪問し、要保護及び準要保護児童生徒の修学旅行補助費を最高学年に限定せず、中学の場合、二年生で実施する場合も給与の対象とすることが出来ること、及び補助費増額について大要左のような要望をした。（写真は内藤局長と会議中の黒金、山本、永井、完戸等の諸氏）



これに対して内藤局長より各県教育委員会の事情を調査して考慮する旨の回答があった。

金修協　先日は局長がお留守の為安達中等課長に要望したが修学旅行の要保護児童生徒に給与する補助費を最高学年に限定せず中学の場合二年生で実施する場合も給与の対象とし、又補助費の増額について法改正をお願いしたい。今日は特にこの要望の強い東北を代表して黒金代議士が来られたので実情をきいてほしい。

黒金代議士　この要望は山形ばかりでなく東北各県及び僻地県の多くが強く希望している。僻地に於いては、秋季において、二年生で最終の修旅を行うようにすれば、一つには輸送が非常に円滑になり、一つには進学就職の指導上大変都合がよくなるので是非よろしく頼みたい。

黒金泰美氏

法改正に努力したい

熱意示す黒金泰美氏

修学旅行補助費の繰上げ支給について数回にわたり文部省と交渉された、山形県選出衆院議員自民党政調会副会長黒金泰美氏は次の様に語っている。

「中学生が楽しみにしている修学旅行は、進学や就職の関係で最終学年に実施せず、繰上げて二年の二学期や三学期に行う学校が最近多くなっているようだ。山形県をはじめ東北地方や全国の僻地県では、二年の秋季に修学旅行を行いたい希望が多いのだが、補助費の支給が三年になっているので、混雑する春に実施している実情だ。今後とも、修学旅行補助費の二年繰上げ支給の法改正に努力を続けたい」

修旅研究発表会決る

東北は11月11日山形二中で

本年度の協会指定の修学旅行研究校及発表会は、中学校二、高校一で、各校の担当者は夫々研究テーマに基いて準備を進めているので発表会当日の成果が大いに期待される。研究指定校、及び発表校、発表者、研究テーマ、期日等は次の通りである。

一、山形市立第二中学校
教諭　長谷川　厳
「修学旅行の教育上における位置と使命」
「本校における修学旅行の反省と問題点」

二、広島県可部高等学校
教諭　森岡　正
（題目未定）
外県内より数氏の研究発表あり
発表期日　二月上旬

三、福岡市立箱崎中学校
（氏名、題目未定）
外市内より数氏の研究発表あり
発表期日　十一月下旬

二、山形県東村山郡相模中学校
校長　杉本　勇
「バス利用による修学旅行について」

一、山形県立山形工業高等学校
（氏名　題目未定）
発表期日　十一月十一日

沖縄における高等学校の修学旅行の現況について(下)

東京都立桜町高等学校教諭　小沼常治

南部農林学校
1八月四日　2二十日間　4六十五弗

名護高校
1七月二十五日　2二十日間　3七〇
4二十名　5一括払い　6鹿児島―関西―東京まで　7今年から始めた。

コザ高校
1七月二十七日　2二十五日間　3七十五弗　4四〇名　5一括払い　6鹿児島経由―関西方面―東京方面―北海道まで　7旅行隊を関西方面が主、北海道までの組と二班に分けて、別々に実施する。

石川高校
1八月三日　2二十日間　3六〇弗
4二十二名　5一括払い　6鹿児島経由―関西―東京日光まで　7参加者三年生に限らず

辺土名高校
1夏期休暇中　2二十四日間　3四〇弗
4二十五名　5一括払い　6関西―東京まで　7一年毎に行う

読谷高校
1七月下旬　2二十日間　三六十五弗　4四〇名　5一括払い　6鹿児島経由―京都―東京―日光まで　7毎年行く先は多少ちがう

前原高校
1七月三十日　2二十日間　3六十五弗　4七〇名　5一括払い　6鹿児島経―関西―東京日光まで　7今年から旅行始まる、毎年やるかどうかは今後の問題

内藤局長　前にそうした要望があったので一応法律の範囲内での便法措置を通達で出しておいたがそれでもまずいならば文部省としては十二月に開かれる全国の教育長会議に諮問して、その事情によって考慮したいと思う。

旅行は、進学や就職の関係で最終学年に実施せず、繰上げて二年の二学期や三学期に行う学校が最近多くなっているようだ。山形県をはじめ東北地方や全国の僻地県では、二年の秋季に修学旅行を行いたい希望が多いのだが、補助費の支給が三年になっているので、混雑する春に実施している実情だ。今後とも、修学旅行補助費の二年繰上げ支給の法改正に努力を続けたい」

山形県における修学旅行の近況

全国修学旅行研究協会
山形県支部長　完戸一郎

本県の修学旅行は小学校に於ては、卒業学年が仙台、松島へ、中学校が、東京、江島、鎌倉又は箱根まで、高等学校では、京都、奈良方面が常道で、日数と経費の上から、先づこの範囲が限度というところである。季節的には、小学校は春から初夏にかけて中学校は、春の季節が圧倒的で、秋季は、全県下でも三校位いしかない。

高等学校は、春、初夏が大部分で、秋は僅かに一、二校程度である。また、交通機関にめぐまれぬ地方なので、小学校では、バス利用の修学旅行が増加しており、中学校にあつては、大部分が汽車利用で、高等学校は、ほぼ、羽越線廻りか、米坂線廻りで、新潟方面に出て、京都、奈良、伊勢、東京というように廻遊するコースを辿つている。途中の箱根一泊の入つているのが多い。

本県では、修学旅行のさいに、事故がおき易いこと、一般乗客といつしよでは、疲労し易いことなどの理由から、関東方面や、中京地区にならつて、修学旅行用の専用列車がほしいとの希望が、大いにもり上り、昨年の十一月には、全県教育関係機関を網羅した「山形県修学旅行研究委員会」が結成された。P、T、Aや学校側も勿論であるが、県教育長が熱心にこの運動に立ち、県議会も一致して国鉄当局にもあたつた。これは、関東や大阪、名古屋などの交通にめぐまれたところにのみ、修学旅行専用列車をつくつて利用させることは、国家の公的な機関としての国鉄としては、余りに利益主義に偏しているもので、教育の機会均等の立前から、特に義務教育の最後の修学旅行を、快的に安全にしてやるという意味からも、易非とも、めぐまれない東北に、まづ以て実現させるべきだというのが、われわれの主張である。ところで、国鉄では、その主旨は諒とするし、又実現に努力をするから、受け入れ体制をつくつてくれとのことである。これは申すまでもないことで、本県としては、秋田、福島両県、さらに東北六県によびかけて、各県に、健全にして有力な修学旅行研究委員会の設立を切望している次第である。ここで、一番問題なのは、春にのみ集中する修学旅行のあり方を改めて、春秋両季にほぼ半分宛の割合に修学旅行全体を組み立てし、国鉄の受け入れ体制を、修旅委でつくることである。ところが、更に、この計画のガンとなつているのが、中学校の場合の貧窮家庭の児童に対する補助金が最終学年に限定されている点である。秋季にやる場合は、中学校で二年生でないと実施が不可能だから、この点の法的な改正が行われ、二年生の場合も補助金の出せるようにしてほしいと文部省にはたらきかけている次第である。これも、全修協本部の御助力と、黒金代議士の御助力で、来年度はラチがあく明るい見とおしになつた。修学旅行は前述のように、国家的にみて、全国もれなく実施する教育行事中の最大にして、最も重要な問題になりつつあるので、国鉄は、今後の計画としては、順次に専用列車を、受け入れ体制のととのつた地方から設定して、全国に及ぼすべきである。われわれは、一年も早くこの実現が全国津々浦々に実現されることを切望している。

この十一月一日に本県の山形二中で、修学旅行研究会が行われるが、県教委、県教組等、他の面では何かと争いの中心におかれている本県でも、修学旅行というような、児童の幸福のためには、一切を忘れて共々に、よりよい修学旅行の実現に相携えて努力している点は、まことにうれしいかぎりである。

東海道「新幹線展」を見る

39年度には東京―大阪、3時間

開催中の東海道新幹線展

東海道線は我が国産業文化の中心地帯を東西に結ぶ大動脈で、この沿線には我が国人口の四割、工業生産額の七割が集中している。したがつてその輸送量は、全旅客及び貨物の約四分の一に達している。今回東海道新幹線が建設されることになり、既に昨年よりこの建設工事が開始されている。この新幹線が完成すれば、輸送力の飛躍的強化と輸送方式が近代化されるので、国民経済や文化の発展、向上に貢献するものが大きいと期待されている。したがつて、昭和三十九年頃の修学旅行の輸送方法も大幅に変化するものと見られている。尚、去る十一月十一日より一ケ月間、東京神田須田町交通博物館において「東海道新幹線展」が開かれ各資料が展示されている。

設備とサービスを誇る
東京本郷の修旅旅館
真成館（真砂町）朝陽館（弓町）
ホテル後楽園（弓町）

東京都に来る修学旅行団体の宿泊旅館の七割位が、本郷地区内で占められている。この理由は、歴史が古く、環境が良い等色々あるが最近では調理場や浴場を整備拡張したり、家庭的なサービスを行うなど、修学旅行に適するように改善されつつある。

しかし、本郷地区の旅館は殆んどが住宅街の中に存在しているので非常災害時における数百人の生徒が、一時に避難する広場に欠けていることである。ここに紹介する三つの旅館は、その点において館内の設備は勿論、退避の際、地の利を得ている事は有利である。

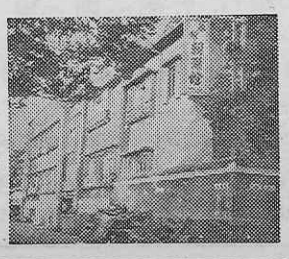
真成館の全景

真成館

都電真砂町停留所の北百米、閑静な住宅街にある木造四〇〇坪の旅館で、中学三五〇人高校一五〇人が宿泊できる。この旅館の特長は、地下室に大浴場が二ケ所あつて一時に百人が入浴できる。また災害時の非常口は六ケ所あり、避難の標示や二階の縄梯子も完備している。

朝陽館

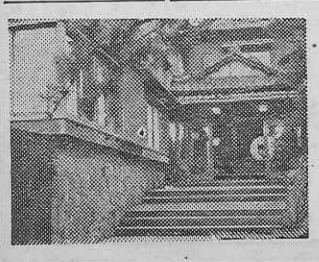
後楽園遊園地の横、本郷弓町台地の一角にある木造五百坪の修旅団体旅館で、中学四五〇人高校四〇〇人が宿泊できる。ここにも地下室に大浴場二、小浴室二があつて一時に多人数の入浴ができる。調理場、洗面、便所等は清潔であり、非常口の標示も整つている。



朝陽館の全景

ホテル後楽園

朝陽館の近く本郷弓町台地の端にそびえる木造三〇〇坪の旅館で、中学三五〇人高校二五〇人が宿泊できる。一階に大小三ケの浴室があり、清潔な調理場、衛生的な洗面所、便所等の設備は良い。特にマイクの設備のある大部屋で、百三〇人が一時に食事のできるのは指導上便利である。



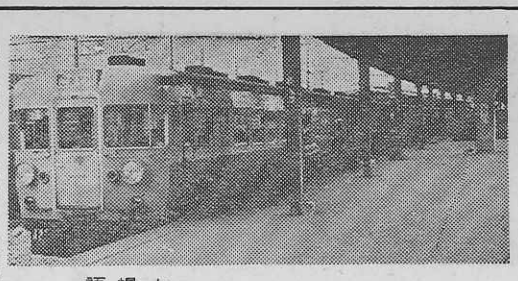
ホテル後楽園の玄関とその一部

快適で気持がよい……

秋の〝こまどり〟号……

……三重県修旅生徒の感想

秋の修学旅行シーズンには、全国から東京や京都、奈良方面へ毎日数万人の中高生が集つてくる。東京方面へ来る東海三県（愛知、岐阜、三重）の中学生は、専用電車〝こまどり〟号を利用して、本年春には約五万人、この秋には一万一千人を数えているが、来年度は更に、春秋で十一万人に増える見込みである。去る十月十二日と十四日、〝こまどり〟号で上京した三重県の各学校を宿舎に訪問して、生徒や引率教師の感想を聞いてみた。（写真は〝こまどり〟号）



清潔だが水が足りない

三重縣南部はダイヤを考慮せよ

会談に集つた新鹿中学三年生の諸君

ときと　十月十二日午後六時より
場所　東京御茶ノ水日本学生会館
語る人　三重県熊野市新鹿中学校
三年　大河君外八名　引率教師　田岡校長　大橋教諭

問　〝こまどり〟条に乗つた感想について。

大川君　清潔で気持がよかつた。しかし朝、顔を洗うのに水がすくなかつたので困つた。

山本君　テーブルが前にないのでトランプができなかつた。

山田さん　〝こまどり〟では酔わなかつたが、バスに乗り替えたら酔つてしまつた。

田岡校長　三重県は南北に長く、南部の学校は普通の列車や近鉄で名古屋に出て〝こまどり〟に乗替えている。〝こまどり〟は名古屋を朝出発するのでそれに乗車するには夜行で行かねばならない。南部まで〝こまどり〟を乗り入れるか、名古屋の出発時間を変えるかを考慮してほしい。

大橋教諭　快適な〝こまどり〟に乗つても、生徒は夜行のため眠つている者が多く、折角の車窓見学の指導が出来なかつたのは残念であつた。

問　東京を見学して何を感じたか

鈴木君　交通博物館では、汽車の模型やトンネルの構造等に興味があつた。

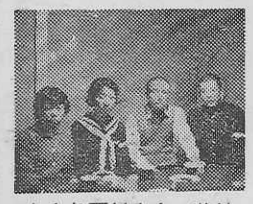
山本君　理科の勉強に役立つたがもう少し見学時間がほしかつた

大橋教諭　二重橋前の広場の砂利をふんで歩く時、何だか神域に通ずるものを感じた。

矢賀君　皇居前広場がよく掃除されているのに感心したが、自動車の多いのには驚いた。

山田さん　羽田空港では近くで旅客機を見たが、その大きいのにはビツクリした。

井本君　滑走路がとても長かつたのは印象に残つている。



左より西村さん、若林さん、山本君、黒川君

楽しい東海道の旅

テーブルとマイクが不充分

ときと　十月十四日午後六時半より
場所　東京都文京区弓町　ホテル　後楽園
語る人　三重県津市西郊中学校　三年　黒川国彦　山本正治、若林和子、西村英子の諸君　教師　前田広吉校長外六名

問　〝こまどり〟号の乗心地は。

山本君　自分達の電車だという気持があるので、車内を汚さないように心掛けた。また車内をきれいにするため、紙屑は一緒にまとめて腰掛けの下において散らないように工夫した。

黒川君　車体の震動がすくないので乗心地がよく、一人も酔う者が出なかつた。また、乗降ドアーが閉つているため、振り落される危険がなく安心して車内を歩くことができた。

若林さん　坐席にゆとりがあるので疲れないし、空席にしてお友達の所へお話に行つても席を取られる心配もなく、愉快に旅を続けることができた。

西村さん　トランプをお友達としながら東海道を旅行できたことはホントに楽しかつた。

黒川君　マイクから出る音がはつきりしないし、車の震動音と友達の話し声などで、よく聞き取れなかつた。

山本君　〝ひので〟のようなテーブルが前に設備されていると、字を書いたり、物を載せたり、トランプもできるので、こんどの新しい車には是非作つてほしい。

前田校長　生徒諸君が話したように〝こまどり〟号は、坐席が確保されてゆつくり乗れるので酔う生徒も出ないし、ドアーが閉つているので生徒の管理が楽だし、快適な修学旅行ができたと思う。

問　今日は箱根からバスで江ノ島鎌倉京浜工業地帯を経て東京に入るコースだつたが、途中の見学の感想は。

若林さん　片瀬で休憩した時、江ノ島に渡れなかつたのは残念だつた。

山本君　江ノ島ではマリンランドや水族館を見学したかつた。江ノ島や鎌倉の風景は、スライドよりもあまり美しくなかつた。

西村さん　長谷の大仏の優雅な顔が、強く印象に残つている。

若林さん　私は鶴岡八幡宮の歴史の跡が忘れられない。

山本君　羽田空港でたくさんの旅客機を見たが、新婚旅行はあれに乗つて行きたいと思つた。

高知県における修学旅行について

全国修学旅行研究協会　高知県支部長　**中沢義之**

一、本県学校の実態

学校数は小学校四三五校、中学校二二三校、小中併設六六校、高校二六校である。その学校の規模は地勢の関係上小規模の学校が多く、小学校に於いて六学級以下（六学級を含む）のもの二八五校、中学校に於ては三学級以下一一七校で共に各学校の半数以上をしめている。尚分校は小学校四三校中学校一二校を有している状態である。

二、日程、費用、見学地

小学校はほとんど全部が香川県琴平高松、屋島であり、日程等も二泊三日で千円程度、中学校は大部分が京阪神方面で、四泊五日三千五百円程度、高校は東京日光方面で六千五百円程度である。

三、時期は

四月下旬より五月中旬が最も多く、次は十月中旬より十一月上旬で、ほとんど此の季節に集中している状態である。

四、今秋の修学旅行は

九月二十七日現在秋の修学旅行の各あつせん業者への申込みを調べて見ると、小学校九十校、中学校八十六校、高校十五校で計一万一千六百人である小学校は全部が香川県行、中学校は京阪神が圧倒的で、高校は全日制はほとんど春に実施しているので定時制がほとんど東京日光方面である。

之等の学校はほとんど十月中旬から十一月上旬を予定しているので本県唯一の県外への通路である土讃線は非常な混雑が予想されるのである。尚同時期には県外からの修学旅行団も現在七千余りも申込みがあつているのでどの列車も修学旅行生でいつぱいになりそうである。

五、今後考えるべき点は

以上本県修学旅行の実態を見た時、小規模の学校の多いこと、各学校日程コースがほとんど同一であること、之等の事より必然的に考へさせられる事は、各学校連合しての特別仕立の列車による修学旅行の計画である。実は昨年此の事を第一着手として県下の小学校の方に呼びかけたが、いろいろの関係であまり反響を得なかつたが、本年になり、だんだん其の声を聞くようになつて来た。本県の修学旅行の今後は学校関係者を中心に修学旅行企画委員会等を作り、実施時期の調整を計り集約醸による理想的な旅行実施に進むべきであると思う。

（写真は高知県支部長中沢義之氏）

先生の修学旅行

来夏第五回実施計画決まる

例年意義深く実施して全国の諸先生方の修学旅行として好評を博している当協会企画の研修旅行は来夏第五回を迎え、このほどその実施計画が全部決まつた。

今までの参加者からの御意見に従つて内容の改良充実にいろいろ手を尽したので、今回は一段と秀れたものになつた。

日程、行程、費用等の詳細は近く各学校に印刷物を配布しておしらせするが、お誘い合せの上是非参加されるようお奨めする。

旅行先は北海道、東北佐渡、伊豆箱根富士、小豆島四国、及び九州で期日は大体八月上旬である。会費は積立、貸出、一時払といろいろ便宜が計られる仕組になつているが、北海道、九州の費用が二万円を若干上回りその他は二万円までである。各方面とも臨時列車を予定している。

二年連続北海道旅行に参加して

愛媛県上浮穴郡美川中央中学校　**宮岡登茂久**

三十四年度全修協の北海道旅行に参加して初めて北海道の風物に接したわけですが、真夏のことであり青森までの汽車の旅は本当に苦しくて、もう二度と行くまいと思つていましたが、日が過ぎるにつれて苦しかつたことはだんだんとうすれて、美しかつたこと良かつたことのみ思い浮べるようになりました。そして本年度また北海道旅行の募集が始まるとじつとして居られず再度参加したわけです。同行の人達から二回も続いて物好きなと言うような質問も受けるし、また自分でもコースも見学場所も同じであるのに何故今年も北海道を選んだか二度の旅を終えて今静かに考えています。第一に思うことは、あわただしい一回の旅では北海道の真の美しさは味えないと言うこと、昨年一緒に行つた友達が同じだろうと言いますが、確かに外形だけでは同じであるが私としては何か岳が見えただけで後の二つは見ることは出来ませんでした。

次は風景を記録に取つて置きたかつたこと。昨年はカラースライド三本に納め今年はカラー八耗十六巻に記録を取り現在編集中です。

次は八十歳になる父が北海道だけ行つてないというので、この父と不具の弟に一度見せて置きたいということなどが再度旅行の理由です。

五年すれば道路整備完了とか聞きましたが、また幾年か後には三たび北海道を訪ねたいと思つています。

第二にどんどん開発の進んでいる北海道を見て、あと十年もすれば電柱と「ホテル」と売店の立並ぶどこにでも見られる姿に変り、本当の自然美を失つてしまうであろうということが心配でもう一度目に焼きつけて置きたいと思つたことです。大きな理由は以上大体二つですが、その外にも第一回目に美幌峠、摩周湖、雌阿寒岳の三つが霧のため見えなかつたこと、ただし今年もやはり三つの中雌亜寒岳が見えただけで後の二つは見ることはできませんでした。

修学旅行
…のご用命は…
強力なサービス　シャープな技術
近畿日本ツーリスト
営業所　全国に120ケ所
本社・東京都千代田区丸の内国際観光会館内　231～4131

研修旅行へ
夏休みの教育視察には絶好の機会!!
先生だけの専用列車で、気軽に行ける
視察コース（カツコ内は実施ブロツク）
北海道一周（全国）・九州一周（近畿以東）・東北佐渡（東海・近畿・中四）
伊豆箱根富士五湖（中国・四国）・小豆島四国一周（東北・関東）
申込みは近日学校へ配布する印刷物を御参照下さい。
企画　財団法人　全国修学旅行研究協会
東京都千代田区神田神保町2の30　LEL(301) 0531・2426

出版界空前のベストセラー
これからの地理教育の決定版
図説　日本文化地理大系
全18巻　全巻総アート函入豪華本
各1500円　隔月刊行
第1回配本(近畿II)
只今絶賛発売中
東京　神田　小学館

写真コンクール当選者発表

三十五年度研修旅行写真コンクールは小規模の催しにもかかわらず質のよい作品が集つた。十月十八日東京日本橋の小西六写真工業KKの五階会議室で朽木光綱氏（小西六）藤村全修協文化部長立会で厳正審査の結果次の如く入賞が決定した。（敬称略）

推薦　二十分停車　愛知県　石黒福蔵
特選　鬼太鼓　兵庫県　高谷舜三
〃　古城にて　神奈川県　飯田恒雄
入選　三木斗夫（兵庫）、五十嵐成江（東京）、関家通伸（愛媛）、村松雅子（静岡）沖倉三郎（東京）沖倉鯉子（東京）、西本武夫（埼玉）鎌木愛子（大阪）、疋田正雄（高知）、清水晃（東京）大竹敏朗（兵庫）、山本慎一（兵庫）、笠井　彪（埼玉）、雨宮達子（神奈川）高田信夫（北海道）西本武夫（埼玉）
佳作　三十名（氏名略）